

(5)医療費から見る生活習慣病（1年間の医療費が高額になる疾患）

平成23年4月から平成24年3月までの1年間の小浜市国民健康保険加入者のレセプトのうち、レセプト1件の費用額が100万以上の高額となった144件の主病名と費用額および転帰については、30から31ページ表18の通りです。

一般に、悪性新生物は、疾患の特徴から死亡に至る者が多くなっていますが、治癒した場合は整形疾患と同様に、さらなる重症化による医療の長期間継続や重度の身体障害を残すことはほとんどありません。

反面、虚血性心疾患で医療費が高額になるのは、冠動脈閉塞に対するステント留置術等によるものです。

また、脳血管疾患は治療後30%の人が要介護状態になることから、本人のQOL（生活の質）の低下とともに、医療および、介護保険の費用も大きくなります。

小浜市では医療費が1件100万円以上の高額レセプト144件、総額2億5,755万8,180円のうち、心疾患、脳血管疾患、大動脈疾患などの循環器疾患は30件（20.8%）で、その合計医療費は6,465万6,820円（25.1%）です。

循環器疾患は、動脈硬化が進展し高額な医療費が必要となる重症化に至る前に、基礎疾患をきちんと治療することで発症を予防できる疾患です。高額な医療となった循環器疾患の中で、基礎疾患に高血圧を持つものが83%、糖尿病を持つものが47%ありました。

中でも、循環器疾患の中で特に多かった心疾患を見てみると、虚血性心疾患では、高血圧症を持つ者が77%、脂質異常症を持つ者が50%、糖尿病を持つ者が41%と、動脈硬化のリスクとなる基礎疾患の割合が高くなっています。

高血圧症や糖尿病は心臓に栄養を送る冠動脈の虚血性変化の進展を促進するのみではなく、全身の血管の動脈硬化を進展させることがわかります。

洞調節不全では、洞結節の傷みが進行することでペースメーカー移植術が必要となりますが、洞結節の痛みの原因の多くは、高血圧症の罹患が長期間におよぶためと考えられます。

高額な循環器疾患にかかる医療費の適正化のためには、高血圧や糖尿病の予防対策を講じていく必要があります。中でも高血圧症や糖尿病のコントロール不良状態を長期化させないために、若年期から高血圧や高血糖を早期に発見し、重症化予防に向けて早期介入していくことが重要になります。

100万円以上の高額レセプト一覧

疾病別 A3 1枚(1ページ) 表14~17 29ページ

全数 A3 2枚(2ページ) 表18 30~31ページ